

## 「新型コロナウイルス感染防止のための学生行動指針」

### 1. 感染防止のための行動指針

- ・学びの継続のため、「感染しない、感染させない」ことを基本に、感染症予防に努める。
- ・「新しい生活様式（5月4日新型コロナウイルス感染症専門家会議提言）」（別添①実践例）」を実践・徹底する。
- ・「感染リスクが高まる『5つの場面』（10月23日新型コロナウイルス感染症対策分科会提言）（別添②）」を回避する。
- ・3密環境となるアルバイト（カラオケ店や飲酒に係る接客業務）は可能な限り控える。
- ・不要不急の外出や会合等への参加については、感染防止に十分に配慮し、各自の判断・責任で行動する。

#### 【体調管理の徹底】

- ・毎日、「健康観察チェック表」を利用して体温の測定・記録を行い、体調チェックを必ず行う。
- ・体調不良の場合あるいは不安がある場合は大学に電話連絡（連絡先：教務・学生支援担当／保健室 097-524-2706）し、対応について相談する。

#### 【感染予防対策の徹底】

- ・新型コロナウイルスの感染者が拡大している現況においては、誰にでも起こり得ることと捉え、マスクの着用、手洗い、手指消毒等の基本的な感染予防に努める。

#### 【都道府県をまたいだ移動に伴う留意事項】

- ・県をまたぐ往來を自粛する。
- ・県をまたぐ就職活動は自粛する。ただし、やむを得ない場合は進路開発センターに必ず相談すること。

#### 【海外渡航について】

- ・外務省ホームページにおいて、感染症危険レベル2以上の国・地域への渡航（私事渡航含む）は、原則、中止する。

#### 【大学構内への入構について】

- ・次の症状に当てはまる場合は、大学に入構せず、必ず、教務・学生支援担当に電話連絡する。

授業当日の朝、37.5度以上の熱がある。

咳や鼻水、頭や喉の痛みという症状がある。

息苦しさが続いている、  
強い倦怠感や味覚・臭覚障害がある。

- ・21時以降の構内への立ち入りを禁止する。また、大学での用事が終了した後は速やかに退構する。
- ・大学構内では必ずマスクを着用する。
- ・手洗い、手指消毒は、教室に入るとき、飲食前後、トイレの後、共用のものに触れたときなどに必ず行う。

#### 【その他】

- ・厚生労働省において開発された「新型コロナウイルス接触感染アプリ（COCOA）」について、積極的にダウンロードする。
- ・課外活動（部活動やサークル活動）では、部長・指導者の指示に従う。  
特に、部室や更衣室でのマスクなしの会話は絶対に避ける。
- ・食堂利用時は黙食とし、食事前後に、テーブルに設置しているアルコール除菌を徹底する。
- ・スクールバス利用時には、乗車中の会話は控える。

### 2. 発熱している場合や風邪症状が見られる場合の行動について

- ・発熱、咳、全身倦怠感等いずれかの症状がある。あるいは、検温し体温が37.5℃以上ある場合は、無理をせず通学は控え、大学（教務・学生支援担当）に連絡をする。
- ・発熱、咳、全身倦怠感等、体調不良の症状が、治療薬を使用しないで体調が完全に回復した場合は、体調が完全に回復して2日後（症状が喪失した日を0日として3日目）から通学する。
- ・発熱や風邪症状が続く場合は、保健所（受診相談センター）に連絡する。
- ・医療機関に必ず受診可能かを本人が電話連絡した上で受診することを前提とする。
- ・自己の行動を記録（把握）する。

### 3. 感染が判明または疑いがある場合の行動について

感染が判明または疑いがある場合は、所管保健所に連絡をとり以下の対応を行う。

#### (1) 学生本人が感染した場合

- ・大学（教務・学生支援担当）に電話連絡をする。
- ・医療機関にて治療及び経過観察を実施する。
- ・所管保健所（受診相談センター）に連絡する。
- ・退院後、大学に電話連絡する。
- ・罹患後の出勤開始については、医師の許可を必要とする（「診断・治癒証明書」を医師に記入していただき、教務・学生支援担当へ提出）。
- ・自己の行動を記録（把握）すること。

(2)学生本人が濃厚接触者または感染が疑われる場合

- ・所管保健所（受診相談センター）に連絡する。
- ・保健所から PCR 検査が必要と判定された場合は、検査結果が判明するまで自宅待機する。
- ・PCR 検査が不要と判定された者場合及び PCR 検査の結果が陰性である場合は、その後毎日の体温測定など健康観察自己管理に努め、常時のマスク着用を条件に出勤可能とする。また、保健所から別途指導や指示がある場合は、その指導・指示に従う。
- ・感染の有無に関わらず大学へ電話連絡する。
- ・自己の行動を記録（把握）する。

4. 家族や兄弟等の同居者が新型コロナウイルスの感染疑いや濃厚接触者となった場合

- ・家族や兄弟等の同居者が新型コロナウイルスの感染疑いや濃厚接触者となった場合は、必ず大学（教務・学生支援担当）に連絡する（濃厚接触者と指定される可能性が非常に高いため）。

【本件に関する相談窓口】

○教務・学生支援担当 097-524-2706

以上

※本行動指針の策定及び更新履歴

2020/04/02 策定

2020/06/24 更新

2020/07/21 更新

2020/08/6 更新

2020/11/5 更新

2020/12/11 更新

2021/1/14 更新

2021/2/18 更新

2021/4/9 更新

2021/4/28 更新

# 「新しい生活様式」の実践例

## (1) 一人ひとりの基本的感染対策

### 感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
  - 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
  - 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
  - 家に帰ったらまず手や顔を洗う。  
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
  - 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

### 移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

## (2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒  咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に）  身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



## (3) 日常生活の各場面別の生活様式

### 買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

### 公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

### 娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

### 食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

### イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

## (4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務  時差通勤でゆったりと  オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン  対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

# 感染リスクが高まる「5つの場面」

## 場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



## 場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



## 場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



## 場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



## 場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

